

## 東京都立 12 校の施設調査報告

### - 特別支援学校に関する基礎的研究 その 1 -

Investigative report on 12 facilities in Tokyo

A basic study on special support education school Part-1

○山岡俊介<sup>1</sup>, 山崎直之<sup>2</sup>, 渡辺富雄<sup>3</sup>

\*Shunsuke Yamaoka<sup>1</sup>, Naoyuki Yamazaki<sup>2</sup>, Tomio Watanabe<sup>3</sup>

This study aims to clarify architectural planning problems of special support education school. The following 12 schools were studied; In the collocated school, intellectual disability and physically disorders (6), intellectual disability and invalidism (1), intellectual disability and visual disability(1), In the independent school; intellectual disability(2), visual disability(1), hearing disorders(1). We summarized the outline of the special support education schools. And their characteristics, various room configurations and plane composition of each school by type of disability were clarified.

*Keywords; Special support education school, Investigative report on facilities, Collocated・independent school, Type of disability, Hearing survey*

#### 1. はじめに

平成 18 年に学校教育法の一部が改正され、これまでの障害別教育から障害種別にとらわれない特別支援教育へと転換された。この改正により東京都においては平成 19 年度に生徒総数 8,852 名であったのに対し、平成 23 年度では 10,707 名と増加傾向<sup>※参 1)</sup>にある(図 1)。東京都は特別支援教育への転換にあたり、各学校が抱える課題解決や、学校の規模・配置の適正化を目的として平成 16 年度より 13 年間 3 期からなる長期計画「東京都特別支援教育推進計画」<sup>※参 1)</sup>を進めている。この中では知的障害の軽い生徒を対象として企業就労を目指す就業技術科の設置や、複数の障害に対応した併置校の設置などが推進されている。また、平成 32 年度までの児童生徒数将来推計を実施し、平成 32 年度までに更に増加するという推計結果<sup>※参 1)</sup>を得ており、保護者などからの特別支援教育に対するニーズは現在も高まり続けている。

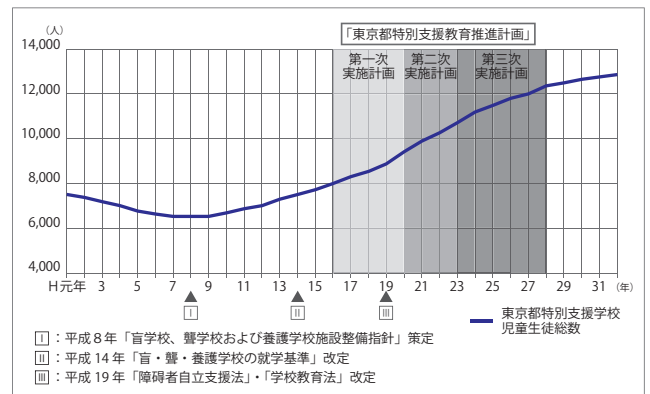


Figure 1 ; Outline of special support education  
Table 1 ; Present situation of special support education schools in Tokyo

	学校数	学級数	学部別児童生徒数				計	調査 学校数
			幼稚部	小学部	中学部	高等部		
視覚障害	4(1)	75	18	51	53	137	259	2
聴覚障害	4	148	94	211	145	179	629	1
知的障害	39(10)	1,399		2,041	1,436	4,171	7,648	10
肢体不自由	17(8)	627		999	534	552	2,085	6
病弱	1	35		34	42	10	86	0
計	56	2,284	112	3,336	2,210	5,049	10,707	12

#### 2-2. 調査対象

都立特別支援学校 56 校(都外立地 1 校を除く)の中から単独盲学校 1 校、単独ろう学校 1 校に加え、知的障害特別支援学校と肢体不自由特別支援学校から併置校、職業訓練科が設置された学校、新築の学校などの特色ある事例より 10 校選定し、計 12 校(表 1)を対象とした。

#### 2-3. 調査方法

各学校の学校要覧、経営シート等を参考に施設概要を把握し、現地調査を行った。また、学校関係者に現在の各諸室の使用状況・問題点等についてのヒアリング調査を行い、設計者・教育庁担当者に設計指針・施設基準等についてのヒアリング調査を行った。調査期間は 2014 年 8 月から 9 月である。

Table 2 ; Outline of investigated special support education schools

略名	名称	障害種	設置学部	就業科 専攻科	生徒数(学級数)					竣工	延床面積	敷地面積	建築面積	構造	階数	寄宿舎	スクールバス
					幼	小	中	高	専攻								
Mu	武蔵台学園	知/病	小・高	—	—	99/30 (23/13)	82/29 (16/11)	158/0 (24/0)	—	H23・3	11,679	16,582	4,474	RC (一部S)	4F	—	大3/中3
Sm	志村学園	知/肢	小・高	○	—	0/33 (0/9)	0/29 (0/8)	160/22 (16/5)	—	H25・4	25,955	33,425	—	RC (一部S、SRC)	3F 地下1F	—	中13
Fk	府中けやきの森学園	知/肢	小・高	—	—	41/71 (12/20)	24/42 (5/12)	206/27 (31/9)	—	H4・2	17,566	35,268	13,757	RC (一部S)	3F 地下1F	—	14
Ts	多摩桜の丘学園	知/肢	小・高	—	—	90/37 (21/10)	57/36 (12/9)	106/24 (17/6)	—	H22・3	9,911	×	10,451	RC (一部S、SRC)	4F	—	大8/中5
Ak	あきる野学園	知/肢	小・高	—	—	85/20 (18/7)	44/12 (9/6)	103/12 (15/5)	—	H9・2	14,221	21,091	—	RC (一部S、SRC)	3F 地下1F	—	大1 中8/小2
Se	青峰学園	知/肢	小・高	○	—	0/8 (0/4)	0/3 (0/1)	119/13 (12/3)	—	×	13,047	24,950	7,816	—	4F	—	中2/小2
Ei	永福学園	知/肢	小・高	○	—	0/51 (0/15)	0/22 (0/7)	290/31 (30/8)	—	H21・3	16,367	20,519	6,366	RC (一部PRC)	4F	—	12
Sn	品川特別支援学校	知	小・中	—	—	87 (20)	46 (10)	—	—	H23・3	8,808	×	6,479	—	4F	—	小8
Ao	青山特別支援学校	知	小・中	—	—	58 (16)	34 (9)	—	—	H26・7	8,810	7,003	7,189	RC (一部S)	4F	—	中2/小2
Ks	久我山青光学園	知/視	幼 小・中	—	0/14 (0/4)	104/20 (23/8)	75/19 (15/6)	—	—	H22・10	16,317	13,496	1,877	RC	4F 地下1F	○	7
Bu	文京盲学校	視	高	○	—	—	—	49 (11)	29 (7)	H12・12	10,589	5,066	3,095	RC (一部S)	6F 地下2F	○	なし
Kr	葛飾ろう学校	聴	幼・小 中・高	○	17 (3)	53 (14)	44 (10)	55 (10)	22 (4)	H17・3	10,746	12,259	5,493	RC (一部S)	4F	—	なし

Table 3 ; Callacteristics of the schools view from disabilities (from facility investigation and hearing)

障害種別特徴		併置校特徴	
<b>肢体不自由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室、廊下に広いスペースが必要</li> <li>・教室の近くに車いす等の置き場が必要</li> <li>・教室間にトイレシャワースペース</li> <li>・スロープ折り返しには緩衝材とミラーを設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援室には床暖房、一部学校は教室にも設置</li> <li>・昇降口は自動ドアが望ましい</li> <li>・教室内に水道</li> <li>・体育館には舞台までのスロープを設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ内はカーテンで仕切っている</li> <li>・運動等は広すぎないスペースが好まれる</li> <li>・昇降口での履き替えはあまり無い</li> <li>・学校隣に医療センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体を下層、知的を上層に配置</li> <li>・動線が交差しないように配置</li> <li>・生徒は部門間を行き来出来ない</li> <li>・昇降口、特別教室は別々であるが、就業技術科の学校であること共有の傾向</li> <li>・昇降口すぐに保健室</li> <li>・肢体の部屋を知的が転用する傾向（鍵が無い）</li> </ul>
<b>知的障害</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室から外は出られないようにしている</li> <li>・教室から廊下に出られないようにしている</li> <li>・教室間にクールダウンの部屋を設置</li> <li>・教室内一部に個人スペースを設置</li> <li>・教室内に水道</li> <li>・転用教室には後から水道を設置</li> <li>・教室内の場所ごとに行うことを決める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室から遠くに昇降口を配置</li> <li>・EV利用にはバスワードが必要</li> <li>・教室をパーテーションで仕切って利用する部屋がある</li> <li>・教室間にトイレ、洗い場を設置</li> <li>・階段を色分け</li> <li>・転用を見越して各室に水道ロッカーを設置して計画</li> <li>・室名などには視覚的支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下に扉をつけよけいな視覚情報を遮断</li> <li>・階段を色分けし場所を明確にする</li> <li>・高等部が圧倒的な増加傾向</li> <li>・ランチルームに全員は入りきれないため中学部、高等部が利用</li> <li>・プールに採暖室</li> <li>・体育館の利用頻度は高い</li> <li>・生活訓練室はグループ、学級単位で利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的を下層、知的を上層に配置</li> <li>・両部門の動線が交差しないよう配置</li> <li>・生徒は部門間を行き来出来ない</li> <li>・重度重複学級のみ教室間トイレを設置</li> <li>・特別教室は共用の部屋もある</li> <li>・吹き抜け部では落下しないように高い欄</li> </ul>
<b>視覚障害</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下壁面に設置される物は壁に埋め込む</li> <li>・廊下に物を絶対に置いておかない</li> <li>・運動する室の壁面にクッション材と床面にラバー</li> <li>・校内は右側歩行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開口部、交差部前には点字ブロックを設置</li> <li>・交差部天井には音を反響させる装置</li> <li>・室名をドアに点字で示している</li> <li>・点字本は場所をとるので専用ロッカーが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄宿舎を有する</li> <li>・白杖は校内では使わない</li> <li>・寄宿舎は離れたところに置きと登下校も訓練とするのが良い</li> <li>・支援センター、教育相談室でセンター的機能を果たしている</li> </ul>	
<b>聴覚障害</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的に情報を保証する装置（TV、ランプ）</li> <li>・授業開始終了時をブザーとランプで知らせる</li> <li>・曲がり角にミラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に各県1校のろう学校が都内4校は異例</li> <li>・就労の幅は他の障害に比べ広く、様々な専攻科を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚支援センターや就前指導室でセンター的機能をはたしている</li> <li>・自身の声の大きさが分からず絶叫し、近隣住民から苦情</li> </ul>	

### 3. 調査結果

表2は調査施設の概要、表3はヒアリング調査から得た施設特徴を障害種別に分類したもので主な点は以下の通りである。**知的障害**：生徒が教室外へと出てしまうことへの対策やパニック時の居場所に関するものがほとんどの学校で見られたが、各学校によってそれらの対応策に差がみられた。**肢体不自由**：教室、廊下などを広く確保することが最も要求されていた。また、教室近くに車いすを置くスペースが必要とのことで現在は廊下を使用している。**聴覚障害**：校内放送や始業ベルなど音に関する物を視覚的に情報保証する設備に最も重点を置いている。**視覚障害**：歩行に関しての要点が多く、校内では右側歩行で衝突を防止し、廊下には障害物が全くない状態が必要とされている。**併置校**：都立併置校は知的障害が設置されており、身体的問題の無い生徒と身体的に虚弱な生徒とが交差することへの配慮が多くみられた。また、就業技術科との併置校ではそれらへの配慮が緩和されている傾向にある。

### 4. まとめ

障害種別ごとの特別支援学校の計画的留意点をさぐることができた。今後、以下の点について着目していく必要があると考える。①小学部と高等部が設置されている一貫校での汎用性への考慮、②市街地に立地する敷地の狭い学校での諸室構成等への制約、③新設する際、教室数を多く配置する計画とあらかじめ転用を見越して各諸室に水道などを設置する計画ごとの特徴  
今後も児童生徒数の増加が見込まれるため、学校・設備計画等において柔軟な計画が要求されるといえる。

#### 【参考文献】

- 1)東京都教育庁；東京都特別支援教育推進計画, 2004.11; 東京都特別支援教育推進計画第二次実施計画, 2007.11; 東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画, 2010.11
- 2)東京都教育庁；東京都公立特別支援学校一覧, 2014.9
- 3)文部科学省；特別支援教育資料, 2012.6
- 4)文部科学省；特別支援学校施設整備指針, 2009.3
- 5)各特別支援学校；学校要覧, 2014; 学校経営シート, 2014
- 6)中川裕美乃, 初見学, 松田雄二；特別支援学校の建築計画的課題と解決策, 日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp495-496, 2012